

毎週日曜発行  
2022 4/17

# こども新聞 週刊がほピョンプレス

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)

きょうのテーマ

## 栗原市の魅力って何？

こども記者が取材

ニュース



佐藤市長に取材する(左から)佐藤陽さん、鈴木美来さん  
3月11日、栗原市役所

自分が住む地域のいいところを考えたことがある？ 「地元の魅力を知りたい」という栗原市金成小中学校6年の佐藤陽さん(11)と鈴木美来さん(11)が、こども記者として佐藤智市長と市議会議員に取材したよ。

2人は進級前の3月11日、市役所の市長室を訪れ、佐藤市長にインタビューし、事前に考えた質問をぶつけました。栗原の好きなところを聞くと、佐藤市長は「一番気に入っているのは人の優しさ。住民がよく声

みんな思い出

みんな動こう

## 人の優しさ、自然が自慢

を掛けてくれる。育てた野菜を持ってきてくれる近所の人もいる」と語りました。



新緑、紅葉と季節ごとに美しい姿を見せる栗駒山、白鳥やガンなど多くの水鳥が冬を越す伊豆沼・内沼にも触れ、「豊かな自然も自慢。自然は人間にはつくれない大切なもの」と続けました。

「栗原の直したい部分は」との質問に、佐藤市長は人口減少を挙げました。10町村が合併し栗原市が誕生した2005年には8万2000人だったのが、今は6万5000人に減少。特に生まれる子どもは半減して



美しい紅葉で知られる栗駒山

いるため「将来の地域を背負う若い人が住める街にしないといけない」と力を込めました。

2人は自分たちが考えた栗原の長所、短所を紹介。「いい点は自然の豊かさ。直したいのは楽しいと思える場所が少ないことで、もっと増やしてほしい」と訴えました。

佐藤市長は08年に起きた岩手・宮城内陸地震で被災して休業した栗駒山のオートキャンプ場を復活させる計画を説明。新型コロナウイルスの流行で自粛が続くお祭りなどのイベントを再開できるように、予算を組んだことも明かしました。



2人が自分たちが地元のために何ができるか尋ねると、「地元を愛してほしい。進学のため一度は栗原を出ても、いろいろな経験をしてみたい。そのために若い人が働く場所を増やせるよう、市長として頑張る」と約束しました。

(8面に続く)

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

### 今週の注目ニュース

◇17日(日) イースター  
十字架にかけられて処刑されたイエス・キリストが、3日目に復活したことを記念する祝祭だよ。春分後の満月直後の日曜日とされているため、毎年日付が変わるんだ。卵とウサギがシンボルになっているよ。

今日の紙面

- 2面 サイエンス
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 聞いて学べる こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 スローな時間 自分を育成